

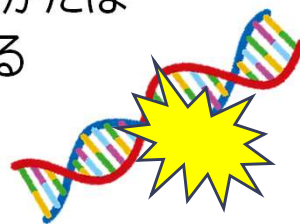
アルツハイマー型認知症に対する新たな治験について

アルツハイマー病

ほとんどのアルツハイマー病は遺伝的な要素とは無関係です。
しかし、

アルツハイマー病のうち1%未満のかたは

- ・ 特定の遺伝子異常が関与する
 - ・ 比較的若年で発症する
- という特徴があります。



- ・ 近年、遺伝子変異を持つ患者さんに対する治療薬の開発が進んでいます。**(iPS創薬★)** ★患者さん由来のiPS細胞から病態を再現した「疾患モデル細胞」を作製し、それを用いて病気のメカニズム解明や有効な治療薬を効率的に探索・開発する技術
- ・ この遺伝子(プレセニリン 1 (PSEN1))に異常がある患者さんを対象とした治験があります。

ご自分がアルツハイマー型認知症の方で
親族の方が認知症（疑い）になっている/または家族性アルツ
ハイマー病に対するブロモクリプチンを用いた第Ⅱ・Ⅲ相治験に
参加できるかもしれません。

この治験にご興味があれば一度ご連絡ください。
治験の詳細を知りたい方は
こちらのQRコードをご覧ください。



第1.0版 2026年5月13日作成

川崎医科大学附属病院 脳神経内科 三原雅史/久徳弓子
電話 086-462-1111、E-mail; kutoku@med.kawasaki-m.ac.jp